

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年8月28日

BMJ: 新変異株BA2.86「Pirola」：どうなのか？

【松崎雑感】

このPirolaと言う新型コロナ変異株は、細菌で言えば、「多剤耐性〇〇菌が出現した。大変だ」と、メディアが騒いでいると言うところでしょうか。でも、細菌と違い、このウイルスは、既往の感染免疫やワクチン免疫でほぼコントロールできるのではないかとみられています。ここが細菌と違う点のようです。

「コロナウイルス」という枠組みの中での、ウイルス側のあれこれのバージョンアップなので、感染免疫とワクチン免疫のない人々を除いては、脅威とならないと思われます、とこう書いていると、最近生まれた人々はどうなのかとちょっと心配になりました。

新変異株BA2.86「Pirola」：どうなのか？

Looi MK. **Covid-19: Scientists sound alarm over new BA.2.86 "Pirola" variant.** *BMJ.* 2023;382:p1964. Published 2023 Aug 24.
doi:10.1136/bmj.p1964

免疫回避効果をもたらす多数の変異を持つ新変異株が、4か国で発見され、専門家が警告を出している。

「BA2.86 は、オミクロン株出現後最も注目すべき変異株だ」とユニバシティカレッジ・ロンドン遺伝子研究所所長フランソワ・バルー氏は述べている。

この変異株は、7月24日にデンマークで最初に同定され、その後イギリス、イスラエル、アメリカで発見されている。これらの患者につながりはない。イギリス健康安全保障庁は、イギリスの患者に最近の旅行歴はないことから、イギリス国内で地域的に発生したものと考えている。

BA2.86（ニックネームPirola）は、2022年から世界に広がったBA2の派生株である。PirolaはBA2より34か所、XBB1.5よりも36か所多いスパイク蛋白の変異を持っている。

BA2.86 はBA2よりも多い免疫すり抜け変異を持っており、流行のモニタリングを最優先で行う必要があるとフレッドハッチンソンがん研究センターコンピュータウイルス学専門家ジェシー・ブルーム氏は語る。WHOは、BA2.86 を「監視中の変異株」という「懸念変異株」に次ぐ株に指定している。

スクリップ研究所の免疫学専門家クリスチアン・アンダーセン氏はXで、BA2.86 があらん限りの変異を獲得していること、そして、現時点で厄介な変異株となるかどうかは断定できないが、そうなる恐れもあるだろうと語った。

感染力と重症化リスク

この記事執筆時点で、BA2.86 の感染力と重症化リスクはほとんどわかっていない。しかし、多くの専門家は、これまでに流行しているオミクロン派生株とそれほど変化はないだろうと考えているようだ。

ブルーム氏は、「BA2.86 が中和抗体すり抜け機能を高度に持っているとしても、これまでにワクチン接種で獲得された幅広い免疫能により、高度に変異した株に対しても重症化を防ぐことができるのではないか。現在多くの人々がワクチンおよび感染免疫を付与されているので、万一、世界中に流行したとしても、パンデミック当初のような悲劇的な事態とはならないだろう」と語った。

バルー氏は、この株が世界全体に広がると仮定しても、アルファ、デルタ、オミクロン株が大流行したパンデミック初期のような重症化と死亡率の高い状態は再現されないだろうと述べた。

また、BA2.86 は、EG.5と違い、少数の免疫不全患者の体内で長期間変異を続けた末に、サーベイランスの不十分な地域において市中感染を起こしたと考えるのが最も理にかなっていると述べた。

ブルーム氏は、BA2.86 がヒトに広く感染する性質を獲得するためには、XBB派生株がもともと持っている強い感染力に関連する遺伝子変異を取り込む必要があるだろうと語った。彼はNature誌に「私はおそらく一月もしないうちに、この変異株は消えてしまい、専門家以外は、この様な株が出現していたことさえすっかり忘れてしまうだろう」と結んだ。